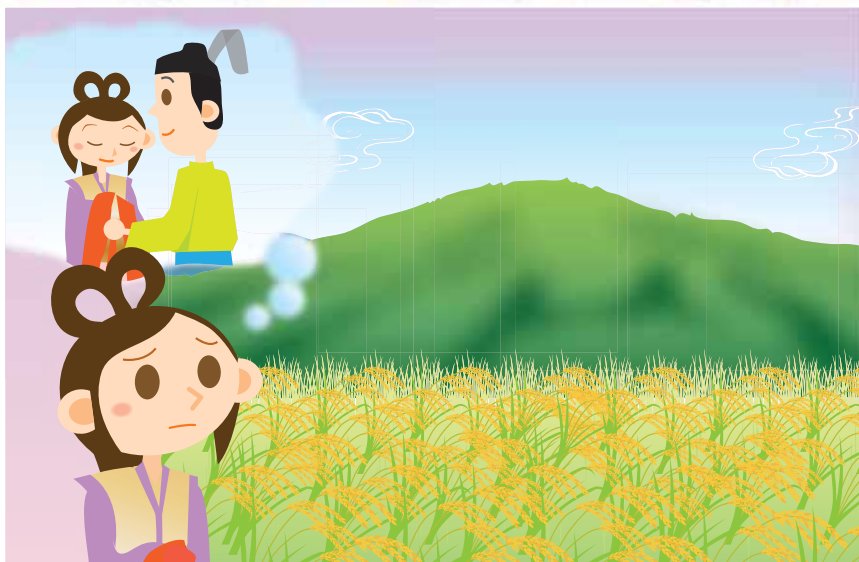




# 稲穂のかた寄り

はじめての  
万葉集  
日本に現存する最古の  
和歌集『万葉集』を  
わかりやすくご紹介。

Vol. 6



秋の田の 穂向の寄れる

かた寄りに 君に寄りなな 言痛くありとも

作者 但馬皇女(巻二の二一四番歌)

(秋の田の稲穂の向きが風に靡くように、一方に心を靡かせて  
あなたに寄りたいことよ。いかに評判をたてられても。)

お米は、食卓に欠かせないもので、日本では大昔から作っていたと錯覚しがちです。

日本列島で稲の栽培が始まったのは、縄文時代の終わり頃ではないかと言われています。

やがて、米作りが定着してくると、税として徴収されるようになりまし。万葉の時代には、王族・貴族や一部の人を除くほとんどの人たちが、米作りをしています。

おそらく歌の詠まれた藤原京(橿原市)を一步出ると、あたり一面には水田が広がっていたことでしょう。

しかし、意外なのは、皇族ですら稲のようすを気に掛けていたことです。但馬皇女は、稲穂の向きが、風で片側に寄っている

るさまを見ていたようです。そして、その光景を自分の恋心に譬えて歌にしました。

歌の最後の「言痛く」は、うるさく噂を立てられることを意味しますが、それでもあなた(穂積皇子)に心を寄せていると、曲げない気持ちを伝えています。

すでに夫(高市皇子)のいる身であるだけに、「言痛くありとも」には、ある種の覚悟を込めていたのかもしれない。

稲穂の「かた寄り」という表現を、万葉集で最初に用いたのは但馬皇女でした。してみると、この歌の「穂」は、あえて穂積皇子にかけて詠んだのではないかと想像したくなります。

(本文 万葉文化館 竹本晃)

藤原宮跡

今回の歌が、詠まれたとされている藤原宮跡では、季節ごとに美しい花が植えられ、秋はコスモスを楽しむことができます。また、大和三山の絶好の眺望スポットとなっています。秋空のもと、一面に広がるコスモスと万葉の人々も楽しんだ大和三山の景色を楽しみに行きませんか。



藤原宮跡(橿原市)

クイズ

先月の答え

② 梅

118首の歌に詠まれているんだよ。



万葉ちゃん

今月の問題

Q 恋心を詠んだ歌が多い万葉集で片思いを表す際に使われたものはどれでしょう。

- ① あさり
- ② はまぐり
- ③ あわび

答えは来月号を見てね